

こうとうくきょういくいいんかいしゅうぞうしりょう  
江東区教育委員会収蔵資料

ひとつばしとくがわけかかえやしきあと  
一橋徳川家抱屋敷跡

せんだいせき しゅつどしりょう  
(千田遺跡) の出土資料

えどじだいちゅうき ばくまつ げんざい おうざばし いししま うみべ せんだ せんごく あた ひとつばしとくがわけかかえやしき じゅうまん  
江戸時代中期から幕末にかけて、現在の扇橋・石島・海辺・千田・千石の辺りには一橋徳川家抱屋敷(十万  
つばおかかえやしき いばらきけんりつれきしかんしよぞう もんじよ しゅうにん まえ  
坪御抱屋敷)がありました。茨城県立歴史館所蔵の一橋徳川家文書によれば、第15代将軍に就任する前の徳川  
よしのぶ じっふ みと なりあき はい  
慶喜が、実父の徳川(水戸)斉昭とともに同屋敷内に入ったことが分かっています。

せんだいほいくえん けんせつ さい いせき はっけん ほんはつくつちようさ  
平成 21 年、千田保育園(千田 22 番地)の建設の際に遺跡(千田遺跡)が発見されたため、本発掘調査を行っ  
たところ、えどじだいこうき う あな き はいちす つた  
たところ、江戸時代後期の“ごみ(を埋めた)穴”9基などが発見されました。屋敷の配置図は伝わっておらず  
ふめい かしんだん ながや くらんち ほ かんが  
不明ですが、千田遺跡の場所は、一橋徳川家抱屋敷内にあった家臣団の長屋の空閑地に掘られたものと考え  
られます。今回、ごみ穴から出土した遺物の一部をご紹介します。



# 一橋徳川家十万坪御抱屋敷 関連年表

年月日	内容
宝暦9(1759) 2/29	2/14に申請していた当家側用人田沼意誠所持の深川海辺新田3,688坪を抱え屋敷とする件に許可が下りる。本屋敷を「扇橋御屋敷」と称するよう命じる
宝暦10(1760) 2/28	宗尹（むねただ。一橋家の祖）病氣保養のため下屋敷へ赴くことを許される。翌日深川扇橋屋敷へ行く
宝暦12(1762) 5/11	目黒・扇橋両抱屋敷にて、夏中铁砲をうつ許可を幕府に求め、17日、扇橋のみ許される
明和8(1771) 10/28	深川扇橋屋敷を若年寄水野峯岐守忠見へ譲渡
天明3(1783) 3/19	嫡子力之助はじめて亀戸筋にて遊ぶ
寛政8(1796) 1/29	深川永代新田において抱屋敷を取得、2/10に引き渡し
寛政9(1797) 4/23	第12代将軍家斉（いえなり）深川に遊獵、千田新田一橋別邸にて食事
寛政9(1797) 12/8	永代新田・海辺新田・千田新田が葛飾郡内2ヶ村の替えとして領地となる
享和2(1802) 5/18	千田新田船入川浚渫の際、4貫目前後の鉛3個を掘り上げる
文化元(1804) 4/11	将軍家斉深川へ放鷹、永代・千田屋敷を膳所とする
文化14(1817) 1/10	永代抱屋敷を島津斉興（なりおき。薩摩藩10代当主）へ貸し切りとする
文政6(1823) 10/25	文化14年に島津家へ貸し切りにした永代屋敷が返還される
文政11(1828) 3/18	斉礼（なりのり。一橋徳川家第4代）永代邸へ赴く、簾中もはじめて永代邸に行く
弘化元(1844) 4/7	永代屋敷において地続きの地を囲い込むため、新地改めとして大岡鞆負の見分を受ける
嘉永元(1848) 9/2	第12代将軍家慶（いえよし）深川筋へ遊獵し、一橋永代屋敷を膳所とする。慶喜・徳信院に手釣りのいな・鯔を賜わる
嘉永3(1850) 1/25	慶喜早朝より田安箱崎邸に遊ぶ。ついで永代屋敷に赴く予定であったが、箱崎邸滞留が延引し、そのまま上屋敷に帰邸
嘉永3(1850) 3/5	慶喜、永代屋敷に赴く。徳信院も同所に遊ぶ
嘉永4(1851) 6/21	将軍家慶、深川筋に遊び、一橋永代邸を膳所となす
安政4(1857) 2/2	慶喜、朝六時出殿して永代邸に赴き、夜五時前帰邸。永代邸には前夜より水戸斉昭が滞在。慶喜と懇談。
明治元(1868) 3/14	茂栄簾中丹羽氏政子と徳信院が上屋敷を立ち退き、永代邸を居所とする
明治元(1868) 4/4	茂栄、駿府より帰府。直ちに登城し、永代邸に戻る
明治元(1868) 4/21	茂栄、居を永代邸より本所横川端邸に移す
明治元(1868) 4/28	徳信院、永代邸より本所横川町へ移る
明治2(1869) 2/4	初午につき銀3両を永代新田屋敷内の稲荷に寄進
明治2(1869) 2/10	初午につき銀3両を永代新田屋敷内の稲荷に寄進
明治3(1870) 1/19	一橋旧領を各縣へ引き渡す。武蔵国葛飾郡は葛飾縣へ
明治3(1870) 3/23	旧領武蔵国葛飾郡千田新田・永代新田・海辺新田三ヶ村、葛飾縣管轄より東京府郡政局管轄に変更する

\* 茨城県立歴史館所蔵一橋徳川家文書を基に作成した『千田遺跡（発掘調査報告書）』P40掲載の表を改変

\* 黄色いトーンは慶喜関係